

急性膀胱炎について理解しましょう

いつもよりトイレに行く回数が多いけれど、思ったより尿が出ない、でもまだ尿が膀胱に残っている感じがする。排尿時（特に後半）ヒリヒリする痛みを感じる。そんな症状が急に起こったら、それは急性膀胱炎かもしれません。

●急性膀胱炎とはどんな病気でしょう

年齢を問わずかかり、特に女性に多いのが特徴です。

細菌（全体の60～80%は大腸菌）が、尿道から入って膀胱粘膜に付着し繁殖することで起こります。通常は菌が入っても膀胱の感染防御機構が働いて膀胱炎になりませんが、様々な要因（ストレス、疲れ、体調不良、冷え症、尿を我慢しすぎた、一日尿量が少ない、性行為など）が重なると膀胱炎になります。

主な症状は、**排尿痛、頻尿、排尿時違和感、尿混濁、血尿、下腹部痛（違和感、鈍痛、張った感じ）**などです。**急性膀胱炎では、とくに排尿の終わりに強く痛む**ことが多くあります。炎症を起こした膀胱が排尿によって急激に縮まり、その刺激で痛みが起こるといわれています。下腹部や尿道口が痛むことが多く、悪化すると、鈍痛や焼けつくような痛みになります。

非感染性の膀胱炎は、原因があまり特定できずに症状があります。急性膀胱炎の治療を適切に行わなかった場合にもおこります。

●どんな検査をするのでしょうか

採尿（検尿）し、顕微鏡で尿の性状を確認します。白血球（炎症細胞）が増えていれば膀胱炎と診断します。結果は検尿後すぐに出ます。クラミジア膀胱炎（性行為感染症）であることもあり、クラミジア膀胱炎を疑うときは、尿中クラミジアの詳しい検査を検査機関に依頼します。超音波検査（腹部エコー検査）でも、必要に応じて腎臓、膀胱に異常がないか確認します。特に膀胱炎を繰り返す、血尿があるなどの症状がある場合は結石、腫瘍などの病気が隠れていないかどうかも含めて詳しい検査を行い判断します。

●どんな治療をするのでしょうか

抗生物質を5日間内服します。通常は1～2日間で症状は改善し、5日間の内服で治癒します。症状が改善しても菌が死滅するまで内服薬を継続する必要があります。そして再度尿検査を行い、治癒を確認する必要があります。菌の種類によっては抗生物質が効きづらいこともあるため、薬の種類を変更し再治療を行う場合もあります。

●予防方法について

- ①体調管理する。身体の抵抗力が低下すると膀胱炎になりやすいです。
- ②トイレを我慢しすぎない。
- ③水分を常に多くとり、排尿によって菌を体の外に早く出す。
- ④陰部を清潔に保つ。排尿、排便後は前から後ろに向けて拭くようにする。
ウォシュレットの使い過ぎは逆効果となる場合もあるので要注意です。
- ⑤性行為後は早めに排尿する。性行為時に尿道から菌が入ることがあります。
- ⑥下半身を冷やさないようにする。
- ⑦クランベリージュースが膀胱炎の予防に良いとの報告があります。

膀胱炎の原因が生活の中で繰り返されると、結果として症状が繰り返し出るということにつながります。そして腎盂腎炎を合併すると発熱や悪寒で動けなくなり、病院に搬送される方もいます。症状を繰り返す方は当クリニックを早めに受診しましょう。急性膀胱炎はきちんと治療し予防することが大切です。

気になる膀胱炎症状がありましたらスタッフにご相談ください。

